

図書館だより 11月号

寒くなってきましたね。
図書館で本と過ごしませんか。

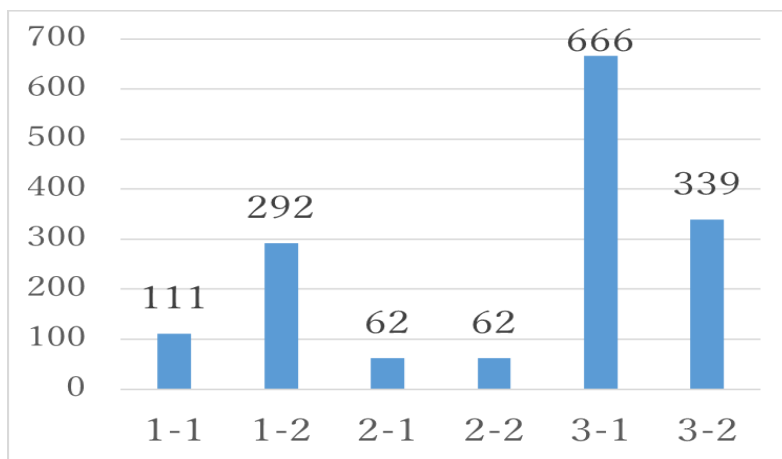


令和元年11月
大洲農業高校図書委員会

4月～10月の図書の貸し出し 合計 1,532冊

目標は、年間1人10冊。ただ今7.3冊です。ぜひ図書館の本を読んでください！

クラス別貸出冊数



本の言葉



「意見がぶつかりあうことをこわがらず、だいじにすること。
ものごとをじっくり考えるいいチャンスなんだから。」

『いっしょに生きるってなに?』

文／オスカー・ブルフィエ 訳／西宮かおり 絵／フレデリック・ペナグリア (朝日出版社)

読書感想文発表会を行いました！

読書感想文発表会、いかがでしたか？本を通して、いろいろな視点から自分の考えを深める機会になっていればうれしいです。皆さんから寄せられた感想を紹介します。

『世界からボクが消えたなら』 作／涌井学 ・ 原作／川村元気（小学館）



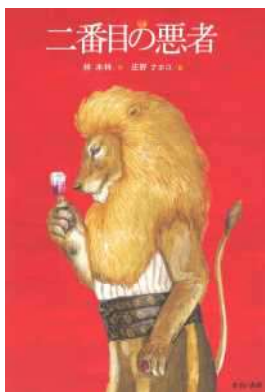
- * この本は、私も以前読んだ本で。自分とは違う考え方があっておもしろいと思いました。
- * 改めて自分の大切な人のそばにいられることに感謝したいと思いました。
- * 私を支えてくれている人、私を作ってくれた人に感謝しないといけないなと思いました。
- * 考えてみると、私が使っているモノにもみんなそれぞれ思い出があるなと気付くことができました。
- * 自分を大事にすること、自分が自分らしく生きることを改めて大切だと思えました。
- * 「今の自分を作っているものは？」という質問は考えさせられると同時に難しい質問だと思いました。
- * 「何かを得るためには何かを失わなければならない」という言葉が心にすごく残っています。

『八月の少女たち』 大野允子（新日本出版社）



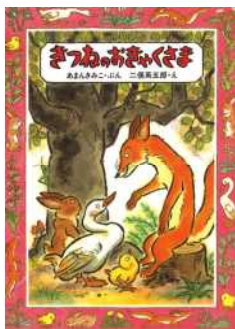
- * 「生きたいんよ」という言葉にすごく考えさせられました。
- * 幸せな時代に生きている私たちが忘れてはいけないことを教えてくれる作文でした。
- * 私は今の生活を当たり前のように過ごしているけれど、当たり前ではないのだということがわかった。
- * 「戦争」をいいかげんに考えてはいけないと思った。
- * 戦争の苦しさは私たちにはわからない。わからないからこそ、理解しようとするのが大事なんだと思った。
- * 私たちと同世代の人たちが、突然命を失うことの悲しさを強く感じた。
- * 少女たちの無念やむなしさを感じる事ができた。

『二番目の悪者』 作／林 木林 ・ 絵／庄野ナホコ（小さい書房）



- * 現代にも、ああいうふうに嘘が広まり、傷つく人、損する人が出ているなと思いました。嘘のウワサが広まりイジメにつながる現代で考えさせられる絵本だと思いました。
- * 現在のネットなどでも同じようなことがいえて、根拠や明確な理由がないにも関わらず、1人の言うことを簡単に信じてしまう私たちのようだなと思いました。簡単に周りに流されない人間になりたいと思いました。
- * とても共感できました。人を蹴落とし上にのし上がろうとする愚かな人、自分は悪くないと責任のなすりつけ合いをする人、どちらにもつかず傍観している人、生々しいので人がモデルではないものの、動物でも十分に書き表されていてすばらしいと思いました。
- * 言葉にはすごく人を変えさせる力があり、これからは考えながら発言していきたいと思いました。
- * 1人だけではあまり信じようとしないことも、共有すると、本当のこのようにみんなが信じてこわいと感じた。
- * 嘘は簡単につけるけど、結果は深く残ってしまうものです。自分の小さな言葉が取り返しのつかないことになってしまうのだと、改めて考えさせられました。

『きつねのおきゃくさま』 作／あまんきみこ ・ 絵／二俣英五郎（サンリード）



- * 「優しい」という言葉の最強さが理解できた。
- * 優しいきつねの行動に正直グッときました。
- * 優しくすることで、自分を変えていけるのだと思った。
- * まっすぐすぎる言葉や気持ちは相手を傷つけるものだと思っていましたが、時にはそのまっすぐさが人を変えたり、喜ばせたりすることができるのだと教えてもらいました。
- * 最初は食べようとしていた動物が、守りたい存在になっていったのがすごいと思った。
- * 他の動物に優しくした分、最後は笑って死ぬるんだと思った。
- * きつねは誇らしく死んだんだろうなあと思いました。
- * 優しい言葉はどんどん人の心を豊かにすると思った。きつねは1人ぼっちでさみしく、うれしい気持ちを味わったことがなかったのだと思った。
- * きつねは、自分のことをほめてくれる者ができて、とてもうれしかったんだなと思いました。

自分の大切な人や生きていくことの希望や証

「人や物、世界とのつながりが「自分」なのだ」

「何かを得るためには何かを失わなければならない」という言葉が心にすごく残っています。今の自分を作っているのは、今私と関わっている全ての人やものだと知れたので、今まで以上に人や物とのつながりを大切にしていこうと思いました。」

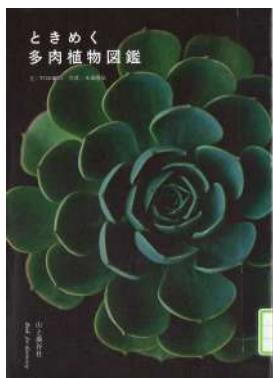
- * 「生きたいんよ」という言葉にすごく考えさせられました。
- * 幸せな時代に生きている私たちが忘れてはいけないことを教えてくれる作文でした。
- * 私は今の生活を当たり前のように過ごしているけれど、当たり前ではないのだということがわかった。
- * 「戦争」をいいかげんに考えてはいけないと思った。
- * 戦争の苦しさは私たちにはわからない。わからないからこそ、理解しようとするのが大事なんだと思った。
- * 私たちと同世代の人たちが、突然命を失うことの悲しさを強く感じた。
- * 少女たちの無念やむなしさを感じる事ができた。

- * 現代にも、ああいうふうには嘘が広まり、傷つく人、損する人が出ているなと思いました。嘘のウワサが広まりイジメにつながる現代で考えさせられる絵本だと思いました。
- * 現在のネットなどでも同じようなことがいえて、根拠や明確な理由がないにも関わらず、1人の言うことを簡単に信じてしまう私たちのようだなと思いました。簡単に周りに流されない人間になりたいと思いました。
- * とても共感できました。人を蹴落とし上にのし上がろうとする愚かな人、自分は悪くないと責任のなすりつけ合いをする人、どちらにもつかず傍観している人、生々しいので人がモデルではないものの、動物でも

十分に書き表されていて素晴らしいと思いました。

- * 言葉にはすごく人を変えさせる力があり、これからは考えながら発言していきたいと思いました。
- * 1人だけではあまり信じようとしなないことも、共有すると、本当のこゝのようにみんなが信じてこゝわいと感じた。
- * 嘘は簡単につけるけど、結果は深く残ってしまうものです。自分の小さな言葉が取り返しのかないことになってしまうのだと、改めて考えさせられました。
- * 純粋なヒヨコの言葉できつねがすごく優しくなっていていいなと思いました。

本の紹介



〈左〉『ときめく多肉植物図鑑』

文：TOKIIRO 写真：本浪隆弘
(山と溪谷社)

〈右〉『ときめくラン図鑑』

文：清水柁孝 写真：当山礼子
(山と溪谷社)

大洲農業高校生として、ぜひ「ときめいて」ほしい写真集です。

美しく、愛らしく、おしゃれな世界に引き込まれます。

昼休みの図書館でページをめくれば、何だかいやされて、本物を目にしたくなるはず！ お友達と、自分の好みの品種を探してみてくださいね。